

技術検討会13年の記録

History of Technical Seminar for 13 years

浜田 忠昭*
Tadaaki Hamada

気象衛星センター「技術検討会」は、昭和51(1976)年10月6日午後第1回の会が開催されて以来、昭和63年3月17日の最終会までおよそ13年間、153回開催された。記念すべき第1回の発表者は、山本孝二氏(現在気象庁観測部管理課長)で、題目は「人工衛星による海面水温の抽出」であった(第1図a)。

当時当センターは、まだ発足しておらず、組織的には気象庁総務部気象衛星課気象衛星センター準備室の名称で、村山信彦準備室長はじめ約80名の職員が、我国初の静止気象衛星「ひまわり」の通信とデータ処理システム(GMSS)の完成を目指していた。センターのデータ処理システムの開発工程はプログラム製作に入ってはいたが、特に最終プロダクトを作成するためのプログラムについてはまだアルゴリズムの決っていない部分も多く、知識の吸収やディスカッションの場が必要であった。プログラム開発・試験用に設置された大型計算機も順調に稼動するようになってきたこの時期に「技術検討会」が始められたのは当然のなりゆきでもあった。第3回まで終了した後、当時の世話人木村光一氏から発表者募集のお知らせ(第2図)が出されている。それによると、発表内容は

- 現在の業務、勉強会の中間報告、成果報告
- 業務とは無関係だが共通の話題となるものの発表
- 出張、学会等の出席報告
- 学会発表の予行演習
- その他何でも

とうたわれている。これを著者なりに要約すると「共通の話題となれば何でも」ということになる。

全153回の発表者、題目等のリストは、付録1に示すとおりである。残念ながら昭和56(1981)年度に開催された第75回から第80回までの6回分は資料が残されてなく、その内容は不明である。付録2に153回の技術検討会の事務局としての役目を果して来た世話人の氏

名を示した。

発表件数の推移を第3図に示す。1978年4月6日には「ひまわり(1号)」のプロダクト作成の現業運用が開始され、それから数年間頻繁に開催されている。その間の発表内容は、衛星の雲写真の解析、計算機プロダクトの検証、プロダクトを利用した解析、プロダクトの改善のための調査等多岐にわたっている。当時の職員の、新しいシステムへ向って行く姿、日本で初めての雲写真やプロダクトへの貧欲なまでの興味がうかがわれる。

その後は15件程度の発表数が続いている。1988年3月17日には、第153回技術検討会が開かれ13年間の幕を閉じた。その年の4月からは「技術談話会」として『共通の話題となれば何でも』発表できる場が残されている。気象衛星センターの職員がここで討論を重ね将来のシステムの改良、開発につながることを期待する。

謝 辞

本報告をまとめるにあたって、資料が残されてなく不明となっている部分について気象協会中村繁氏(元システム管理課長)、松橋史郎氏(元データ処理課長)に当時のメモ等を調べて頂いた。残念ながら不明部分の解消には至らなかったが、多くの努力をして頂いた事を付記し感謝致します。

付録1の作成にはアルバイトの中村隆子氏と矢田智子氏の協力を得ました。感謝致します。

* 気象衛星センターシステム管理課、Meteorological Satellite Center.

<p>第1回 技術検討会</p> <p>日時 昭和51年10月6日</p> <p>13時30分より15時00分まで</p> <p>場所 磁気テープ庫</p> <p>発表者 山本孝二</p> <p>発表題目と内容概略</p> <p>題目 人工衛星による海面水温の抽出</p> <p>概略 51年度海洋学会において「衛星情報の抽出とリモートセンシング」というシンポジウムが前催されるに当り、PCCシステムでの海面水温処理方式の説明と依拠これによる、現在開発中のシステムを紹介する。</p> <p>内容は ① 緯度経度データと海面水温(放射温度)の関係 ② 校正 ③ セットプログラム分析 ④ 差分法 ⑤ Quality Control ⑥ SHSを用いた本年2月～3月にかけての Gulf-Stream 付近の海面水温パターンの抽出</p> <p>シムニ</p>	<p>第153回 技術検討会</p> <p>日時 昭和63年3月7日(木)15時30分～(預)</p> <p>場所 第一会議室</p> <p>話題提供者 麻生正 (解析)</p> <p>テーマ</p> <p>ベトナム出張報告</p> <p>システム管理課</p>
--	---

第1図 技術検討会のお知らせ

b. 第153回 (最終回)

「技術検討会」発表者募集

5.11.8 木村

これまで3回の「技術検討会」がおこなわれ、軌道に
乗リアップあります。「技術検討会」は、

原則として、木曜の午後1:30~3:00に、
パン千重、会議室等で
おこなわれています。

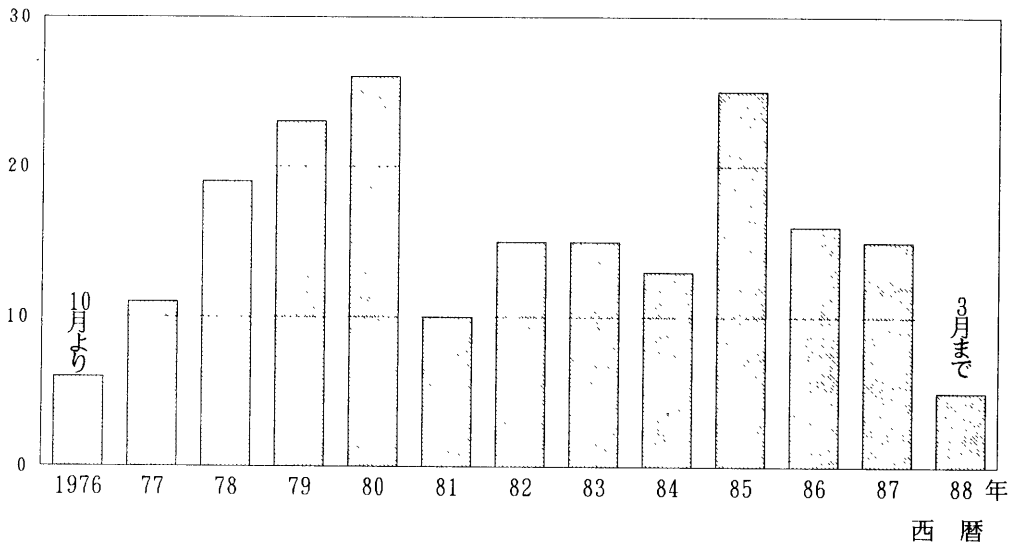
「技術検討会」は誰でも発表でき、参加できま
す。発表内容は、

現在の業務、勉強会の中間報告、成果報告
業務とは無関係だが共通の話題となったものの発表
出張、学会等の出席報告
学会発表の予行演習
その他何でも。

「技術検討会」の場を發表したいと思われれる方は、
システム管理班 木村 (内線3333)
へ 連絡してください。

第2図 発表者の募集

発表件数



第3図 技術検討会発表件数

付録1 気象衛星センター技術検討会一覧表

1976年10月～1988年3月

回	日時	会場	発表者	発表題目
1976 (昭和51) 年				
1	10月6日	磁気テープ庫	山本孝二	人工衛星による海面水温の抽出
2	10月19日	会議室	寺内気象衛星課長	CAS (Commission for Atmospheric Sciences: 大気科学委員会) の出席報告
3	11月4日	パンチ室	浜田忠昭	風計算国際比較作業におけるSMS画像の位置合わせについて
4	11月18日	磁気テープ庫	島田健司	出張報告 ① 10月19日～22日 WMO 主催で行われた "Snow Studies by Satellites" のセミナー報告 ② ESOCにおけるMeteosatに関する業務及び施設についての報告
5	12月2日	パンチ室	井上豊志郎	① 射出更正 ② 窓領域の2チャンネルでの海面水温値の算定
6	12月16日	MT庫	山下喜弘	宇宙環境モニタ (SEM) について ・ GMS-I に搭載するSEMサブシステムとそのデータ処理 ・ 太陽活動と solar flare に伴って、放出される太陽プロトン ・ 太陽活動と地球周辺空間の状態 ・ 太陽プロトンと地球大気熱構造
1977 (昭和52) 年				
7	1月13日	写真資料庫	加藤一靖	フロリダ州マイアミにあるSFSS (Satellite Field Service Station) を見学した。ここではループフィルム法による風計算を現業的に実施しているため、その内容をスライドによって説明する。
8	1月27日	パンチ室	神子敏朗	NOAA衛星及びNIMBUS5号における大気鉛直構造の導出
9	2月10日	控室	嶋村 克	(気象衛星講習会資料説明) 解析班が主になって、全国各地の気象官署で講習会を開いた。内容のレベルは高くはないが基本的なことについて復習する意味で講習会で用いた資料を紹介説明する。
10	2月18日	会議室	寺内気象衛星課長	C GMS-VII と E C パネルの報告 ・ C GMS-VII ① DSP ② W E F A X ③ 風計算国際比較 他 ・ E C パネル ① 将来の衛星計画 ② トレーニングセミナー開催 他
11	4月28日	会議室	長谷川隆司	オーストラリアでの出張報告

回	日時	会場	発表者	発表題目
1977 (昭和52)年 (つづき)				
12	5月11日	大会議室	清水喜允	Optimal-variational Analysis Scheme 最適内挿と変分調節をもつ解析スキーム
13	5月12日	大会議室	山岸照幸 加藤、竹内 菊池	(1) 雲頂高度算出に必要なパラメータの基礎調査 —ヒストグラム解析—
			島田健司 橋本昇三	(2) 静止気象衛星画像から得られた風計算結果の検討
14	5月23日	控室	浜田忠昭 田崎允一 斎藤 優	静止気象衛星画像から有効な雲移動量を算出するための基礎調査 —追跡に適する雲パターン—
15	6月16日	控室	湯山 生	積雲の発達過程 (8ミリ)
16	6月27日	大会議室	新田 尚	(気象庁予報部電子計算室数値予報班長) 講演会 FGGEとMONEXの研究計画について 懇談会 FGGEとMONEXの業務対応等について
17	8月11日	大会議室	浜田忠昭 田崎允一 斎藤 優 野田忠彦	SMSデータによる風計算国際比較報告
1978 (昭和53)年				
18	5月22日	第一会議室	浜田忠昭 田崎允一 斎藤 優 野田忠彦	(1) 静止気象衛星画像から有効な雲移動量を算出するための基礎調査 (その2) —パターンマッチングに関する自動評価—
			青木忠生	(2) Semi-direct Rarandom Band Model の精度
19	7月11日	第一会議室	山下 洋 町田英三郎	(1) マイクロフィルムからの再現性と利用上の問題点 (2) 1978-Feb-20 ~ Mar. 7 のGMS撮像の動画
20	7月20日	第一会議室	加藤一靖	NESSで計画しているGOES/SMSの加括について
21	8月4日	第一会議室	青木忠生	VISSR IRチャンネルを含む海面温度に関する情報量について
22	8月11日	第一会議室	浜田忠昭 野田忠彦	日本の風計算システム (CWES) からの算出ベクトルの精度について
23	8月15日	第一会議室	島田健司 橋本昇三	画像処理コンソールによる台風中心位置の推定について
24	8月24日	第一会議室	清水喜允	VISSR data の気象解析への利用 I—気象電報の処理と大気解析スキーム—
25	8月31日	第一会議室	浜崎雅憲	MCLシステムと画像データ処理について 1. MCLシステム概要 2. 画像データ処理への応用 3. 擬似カラー表示によるloop movieの実演

回	日時	会場	発表者	発表題目
1978 (昭和53)年(つづき)				
26	9月8日	第一会議室	嶋村 克	衛星資料上にみられる Deep Convection
27	9月21日	第一会議室	村松照男	GMSで捕えた pre-frontal squall line の構造とそれに伴う severe storm -1978年2月28日 地下鉄東西線転覆事故に関して
28	9月26日	第一会議室	Dr. A. F. HASLER	(NASA GSFC) Meteorological Parameter Extraction from Geostationary Satellite Data (静止衛星資料より求められる気象要素)
29	10月5日	第一会議室	斎藤 優	NESS/Meteorological Satellite Laboratory 出張報告
30	11月1日	第一会議室	Dr. W. L. Smith	(NESS) TIROS-N Vertical Sounding 資料の利用
31	11月10日	第一会議室	Dr. T. T. Fujita	(シカゴ大学) VISSR マルチ観測資料の利用について
32	(不明)			
33	12月1日	第一会議室	井上豊志郎	(1) VISSR-IRチャンネルが含む情報量と熱帯域における全可降水量の推定法について
			青木忠生	(2) TIROS-Nデータ処理システムについて
34	12月7日	第一会議室	渡辺和夫 上田文夫	「熱帯雲クラスターの日変化」
35	12月13日	第一会議室	清水喜允 鈴木一雄	熱帯の客観解析
1979 (昭和54)年				
36	2月8日	衛星センター 大会議室	猪川元興 加藤一靖	① アメダス・衛星の客観解析システム ② 上記システムを用いたケーススタディ ・アメダス降雨量と衛星TBBとの対応 ・アメダス地上風による収束・うず度と降雨帯との対応 ・その他
	3月19日 (3月20日にも同一内容で実施)	第一会議室	浜崎雅憲	① 画像モニタ・システムについて ② 小型計算機 (AlphaSI) の取扱説明及び実習
37	3月23日	第一会議室	島田健司 橋本昇三	IR Digital Data による台風中心の決定
	4月5日	第一会議室	Mr. Bruce Neal	(オーストラリア気象局) Use of GMS Satellite Data in Australia オーストラリアでのGMS衛星データの利用
38	4月10日	第一会議室	阿部勝宏	「ひまわり」による海面水温解析

回	日時	会場	発表者	発表題目
1979 (昭和54)年 (つづき)				
第39、40回 (不明：欠番と考えられる)				
41	4月18日	第一会議室	高橋大知	簡易型座標変換方式
42	4月26日	第一会議室	嶋村 克	GMS資料を用いた北西太平洋熱帯におけるUpper Level Cold Lowの解析
43	5月16日	第一会議室	小花隆司	(1) 地形性絹雲について (1)
			村松照男	(2) 冬季、日本海西部に発生するCu, Cbライン-北陸里雪型大雪に関連して-
44	5月18日	第一会議室	中村健次	(1) 熱帯における『LF風ベクトルおよび雲量分布』のスペクトル解析
			長谷川隆司	気象衛星資料からみた土佐沖低気圧
45	6月6日	第一会議室	Dr. Oscar K Huh Dr. John T. Wells	(Louisiana State University) Remote Sensing of Coastal Waters; Surface Temperatures, Temperature Gradients, and Heat Flux Processes
46	6月21日	第一会議室	前田紀彦 高橋大知	① 風計算時VISSR画像の画像ズレについて ② 画像ズレ自動修正プログラムについて
47	7月5日	第一会議室	浜田忠昭	GMS風計算結果の精度について
48	7月18日	第一会議室	小花隆司	LF法風計算誤差について
49	10月1日	第一会議室	John A. Leese	(NESS次長) TIROS-N Satellite Operations について
50	10月22日	第一会議室	阿部勝宏	(1) 静止気象衛星「ひまわり」の赤外放射データによる旬平均海面水温と半月平均海面水温の算出率
			原田知幸	(2) 静止気象衛星「ひまわり」による1979年4月の紀伊半島沖の冷水塊について
51	11月1日	第一会議室	中村健次 杉本清秋	VISSR輝度分布の出力プログラムとその利用について
52	11月8日	第一会議室	渡辺和夫	オーストラリアにおける気象衛星データの利用状況について
53	12月12日	第一会議室	青木忠生	米国研修報告
54	12月19日	第一会議室	廣岡軍治	月によるVISSR IR画像のレベルダウンバンドについて
1980 (昭和55)年				
55	1月10日	第一会議室	島田健司	熱帯低気圧に関する国際研究集会の報告
56	1月17日	第一会議室	前田紀彦	マッチング法による台風中心位置推定

回	日時	会場	発表者	発表題目
1980 (昭和55)年(つづき)				
57	2月7日	第一会議室	村上勝人	(気象研究所台風研究部) 静止衛星資料およびゾンデ観測資料を用いたGATE領域における大規模積雲活動の解析
58	2月26日	第一会議室	猪川元興	(気象研究所予報研究部) 「佐々木の変分法」による、ソフターマスタックを用いた、山を考慮した客観解析(中間報告)
59	4月30日	第一会議室	山田隆之	熱低の構造について
60	5月14日	第一会議室	渡辺征夫	(1) 気象衛星資料によるITCZの解析
			加藤政勝 森川幹夫	(2) GMS風ベクトルの精度の検討 (特にBFLについて)
61	5月19日	第一会議室	上田文夫	(1) GMS資料による熱帯雲域のスペクトル解析
			小花隆司	(2) 下層雲域を発達させる上層雲の役割についての一見解
			木村隆昭	(3) GMSでとらえたオホーツク海の流氷と風との関係
			長谷川隆司	(4) 南岸低気圧(本州南岸沿いを西進後東進する中間規模じょう乱)
			三木芳幸 鈴木哲夫	(5) 衛星赤外面像とレーダーエコーとの関係
62	5月20日	第一会議室	阿部勝宏	(1) 静止気象衛星「ひまわり」の赤外放射データによる可降水量の算出
			清水喜允	(2) 赤外資料の格子化による降雨強度の推定 - 雲量, 雲高, 雲高偏差の性質 - ・赤道収束帯から北にのびる雲バンド
			中村健次	(3) 対流圏上層の発散うずが台風前期の熱低を形成することについて
63	6月23日	第一会議室	里見 穂 元木敏博	日本海の季節風の例 (マルチセグメント観測の中間報告)
64	8月4日	第一会議室	黒田雄紀 小佐野慎悟	(1) Sub-high 縁辺の対流性雲バンドの解析
			里見 穂	(2) GMSとデジタルデータによる対流雲の観測(I)
65	9月17日	第一会議室	浜田忠昭	絹雲の追跡によるサブジェット近傍の上層風の算出 (SSC滞在報告その1)
66	9月25日	第一会議室	加藤政勝	(1) 南岸低気圧の数値シミュレーション
			渡辺征夫	(2) 熱帯低気圧発生場の風ベクトルによる解析

回	日時	会場	発表者	発表題目
1980 (昭和55)年 (つづき)				
67	10月30日	第一会議室	中島 忍	(1) アメリカにおけるTOVS処理について
			浜田忠昭	(2) アメリカにおけるテレビ放送による天気予報 - SSEC報告その2 -
68	11月21日	第一会議室	土屋 喬	オーストラリア出張報告
69	12月10日	第一会議室	阿部勝宏	(1) GMSの赤外放射データにより算出した広域海面水温値の精度, 及び将来の海面水温処理
			加藤政勝	(2) 南岸低気圧の運動場について
70	12月17日	第一会議室	浜田忠昭	SSEC報告 (その3) ① SSECの組織と運営 ② 画像処理システムMcIDASの機能 ③ その他
1981 (昭和56)年				
71	2月12日	第一会議室	中村健次 杉本清秋	画像歪修正とIPC出力を取入れた台風位置の一次決定
72	3月11日	第一会議室	浜田忠昭	現業風計算結果に付加する高度の改良について (主として下層算出風)
73	4月7日	第一会議室	山下 洋 柴田 宣 清水喜允 三木芳幸	Infrared Parameters for Nowcasting Severe Rain Storm 大雨の実況予報の赤外因子; 大雨の予警報の適切な発表に資する衛星側の貢献を考える。
74	4月17日	第一会議室	長井嗣信	(1) (地磁気観測所) GMSによる磁気圏風の観測
			須田友重	(2) (気象研究所) 太陽宇宙線について
75	4月23日	第一会議室	中村健次	上層の高気圧性循環と台風の発生
76	5月19日		土屋 喬	
(第76~80回は資料がないため不明)				
1982 (昭和57)年				
81	4月27日	第一会議室	島田健司 内田雅夫	「TBBによる台風の中心気圧の予想」について
82	5月6日	第一会議室	佐藤一吉	ユーザ室の開設にともなう、センター内の改造について
83	5月12日	第一会議室	住 明正	(気象庁予報部電子計算室) Study Conference on Observing System Experiment (JSCの数値予報作業委員会主催、 イギリス 1982.4.19-4.22) についての報告

回	日時	会場	発表者	発表題目
1982 (昭和57)年 (つづき)				
84	5月14日	第一会議室	青木忠生 中島 忍	TOVSデータ処理で得られる鉛直分布データの精度について
85	5月17日	第一会議室	元木敏博	(1) GMSデータから求めた雲移動ベクトルによる季節風の解析
			渡辺征夫	(2) N E S S 応用研究所滞在報告
86	5月21日	第一会議室	浜田忠昭 加藤一靖	ひまわりの風計算システムにおける客観的雲指定法の開発 その1: ヒストグラム解析法 その2: 処理試験結果
87	5月31日	第一会議室	武田信夫	(気象庁総務部企画課) 欧米諸国の気象業務におけるコンピュータ利用の現状調査報告
88	7月29日	第一会議室	市沢成介 浜田忠昭	可視画像と赤外画像による風計算結果の比較について
89	9月28日	第一会議室	市沢成介	風計算処理高速化のためのテスト (一段一段マッチング処理) 結果報告
90	10月15日	第一会議室	高野 功	2つの衛星からの同時観測
91	11月1日	第一会議室	舟田久之 荒井 浄	メキシコ・エルチチョン山噴火による火山灰の気象衛星による観測について
92	11月17日	第一会議室	楡井壮一	GMSによる雲頂高度とパイロット報告との比較
93	11月30日	第一会議室	石川正勝	総観雲頂高度算出処理のプロダクトの精度向上について
94	12月14日	第一会議室	島田健司 内田雅夫	TBB を利用した台風の強さの予測 (その2)
1983 (昭和58)年				
95	2月18日	第一会議室	黒田雄紀	(1) 雲画像の特徴と雲解析の着目点
			加藤政勝	(2) TOVSデータ (水蒸気、温度) の検討および解析例
96	3月10日	第一会議室	坂田俊夫	昭和57年度気象衛星講習会の内容 ① 雲画像の解析について、東支那海に発生する低気圧 ② 豪雨の雲画像について ③ 台風の雲解析について
97	3月18日	第一会議室	一木明紀 高橋大知 香月修一 山本孝二 富樫正明	(1) GMS-1, GMS-2 同時観測による T _{BB} の差について
			市沢成介	(2) 衛星風と高層観測風の比較

回	日時	会場	発表者	発表題目
1983 (昭和58)年 (つづき)				
98	5月24日	第一会議室	市沢成介	① 自動雲指定法における相関値計算領域の大きさが与える取得ベクトル数の相違 ② 衛星風の精度
99	7月5日	第一会議室	青木忠生 中島 忍	TOVS新係数決定システム
100	9月8日	第一会議室	富樫正明 山本、一木 高橋、香月	(1) GMS-1, GMS-2 同時観測による T_{BB} の差について (2) 同上 考察
			高野 功 杉本清秋	(3) GMS-1, GMS-2 同時観測による雲頂高度観測
101	9月29日	第一会議室	阿部勝宏	オーストラリア気象局の計算機システム及び研究業務について
102	10月13日	第一会議室	浜田忠昭	(1) 衛星風と船で観測された海上風の比較
			青木忠生	(2) 小型で極めて強い台風の場合に生じる IR Dvorak法
103	11月1日	第一会議室	島田健司	小型で極めて強い台風の場合に生じる IR Dvorak法の問題点
104	11月17日	第一会議室	浜田忠昭	気候研究のための海上の風のデータセットについてのワークショップ参加報告
105	12月15日	第一会議室	明石秀平	VISSR画像データのセグメント化について (中間報告)
1984 (昭和59)年				
106	2月24日	第一会議室	島田健司 桃井保清	フィリピン気象局におけるGMSデータ利用セミナーの報告
107	2月27日	第一会議室	坂田俊夫 荒井 浄 見立陽一	衛星資料の短時間・短期間予報への利用 ① 渦度の動きと雲分布の変化 ② 「本州南岸を西進して発達する中規模の雲システム」の予測手法の客観化
108	3月2日	第一会議室	鴨志田章 加藤政勝	気象衛星資料利用講習会の内容について ① LR-FAXについての説明 ② 画像上での雲形判別と注目すべき雲域 ③ 発達する低気圧に伴う雲パターンと日本海低気圧の事例解析 ④ 58年山陰豪雨及び南岸低気圧
109	5月17日	第一会議室	元木敏博	(1) GMS による上層風ベクトル場の長期変動
			坂田俊夫	(2) 安定層が地衡風波動へおよぼす影響について
			徳野正己	(3) NOAA-7 AVHRRによる地表面温度分布の解析
			久保田効	(4) 地球放射収支の海陸による差異について

回	日時	会場	発表者	発表題目
1984 (昭和59)年 (つづき)				
110	9月5日	第一会議室	Lee Hee-Hoon	(韓国中央気象台) 韓国における気象業務について
111	10月11日	第一会議室	井手和夫	第6回日豪合同会議に出席して
112	10月19日	第一会議室	元木敏博 小佐野慎悟	GMS データによりレーダーエコー 指数を推定する試みについて
113	9月5日	第一会議室	小坂義裕 山本 誠	(富士通㈱) McIDASシステムについて
114	12月13日 (116回へ延期)	第一会議室	富樫正明 西田淑博	GMS-2 ハウスキーピングデータ 長期解析グラフ について
115	12月18日	第一会議室	一木明紀	航空気象官署におけるBELOW MINIMA現象に対する衛星資料の利用について
1985 (昭和60)年				
116	1月10日	第一会議室	上田真也 川端清司 鈴木孝雄	(1) ストレッチドV I S S R方式及びUHF 回線の利用について
			富樫正明 西田淑博	(2) GMS-2 ハウスキーピングデータ 長期解析グラフ について
117	2月15日	第一会議室	佐々木秀行 山岸照幸 坂田俊夫	LR-FAXを中心とした衛星センターから配信される資料の利用法 (気象衛星資料利用講習会の内容について)
118	2月28日	第一会議室	高野 功 斉藤和雄	ファンメッシュ点での下層雲ベクトルの統計的解析
119	3月13日	第一会議室	久保田効	(1) ISCCP 資料管理作業委員会第4回会議に出席して
			青木忠生	(2) TOGA (1984年3月) およびTOVS (1985年2月) 国際会議報告
120	3月18日	第一会議室	木場博之	ドボラック法による台風の強度解析を画像処理コンソールで行うプログラムの試作
121	4月26日	第一会議室	吉田泰治 所長	今後の気象衛星システムについてのフリー・ディスカッション
122	5月7日	第一会議室	市成 隆	(1) 台風の近傍で明瞭になった寒冷前線性雲列
			高橋永寿	(2) 西進性雲システムの九州付近での事例解析
			内山徳栄	(3) GMS 画像で解析された層積雲域の相対湿度の鉛直プロファイルの統計

回	日時	会場	発表者	発表題目
1985 (昭和60)年 (つづき)				
123	5月16日	第一会議室	元木敏博 島田健司	(1) GMS データに見られる台風が発達するTDの特性
			斉藤和雄 高野 功	(2) 本州南岸沖の停滞性雲システムの衛星風ベクトル
			高野 功 斉藤和雄	(3) 短時間間隔で撮影されたGMS 画像による下層風の観測
124	6月21日	第一会議室	吉田泰治 所長	微格子力学モデルの物理過程について
125	6月27日	第一会議室	浜田忠昭	(気象庁予報部数値予報課) FGGEのまとめ会議出席報告 (GENEVA, 1985, 5, 27-31)
126	10月14日	第一会議室	久保田効	地球放射収支の海陸差
127	11月12日	第一会議室	(気象庁予報部長期予報課)	
			栗原弘一	(1) 東アジアの異常気候について
			林 久美	(2) ITCZの季節変化と季節内変動について
128	11月13日	第一会議室	白井紀一郎	昭和60年度航空気象予報技術検討会にむけて、空港 BELOW MINIMAに関し、霧、降雪、強雨別の衛星資料よりのコメント
129	11月28日	第一会議室	増田一彦	大気・海洋系における上向き放射強度と偏光度
130	12月10日	第一会議室	松田修三	中国出張報告 - 中国DCP の技術指導を終えて -
131	12月19日	第一会議室	久保田効 内田明博 三田昭吉 竹内義明 用貝敏郎	放射シュミレーションの計画
132	12月24日	第一会議室	小佐野慎悟 元木敏博 鈴木和史	GMS からレーダー・エコー強度を推定する試み (その2)
133	12月27日	第一会議室	徳野正己 中村和信	GMS 雲量分布の長期変動調査のための資料作成(1) —— 半月および月平均データビデオ化の試み ——
1986 (昭和61)年				
134	2月28日	第一会議室	鈴木和史	VFM 予想図の雲解析への利用
135	3月27日	第一会議室	久保田効 内山明博 三田昭吉 藤村弘志 竹内義明 用貝敏郎	放射シュミレーションの経過報告

回	日時	会場	発表者	発表題目
1986 (昭和61) 年				
136	5月20日	第一会議室	元木敏博	(1) GMS データとエコー強度が降水強度を推定する試み I
			小佐野慎悟	(2) 同 II
			鈴木和史	(3) 暖気移流時に現れるオープンセル
			徳野正己	(4) NOAA AVHRRデータによるVEGETATION INDEXの季節変動について
			竹内義明	(5) 雲の水平パターンのフラクタル構造
			竹内義明	(6) 放射伝達問題における球面関数展開法の計算手順について
			内山明博	(7) 透過関数の指数関数による近似について
			大沢和裕	(8) 中国の西部山岳地帯に発生する濃密上層雲域の事例解析
			木場博之	(9) 台風の気圧中心の東方に偏在する積乱雲の雲渦の解析 (序報)
			内山明博	(10) GMS からの海面水温の推定について
137	7月4日	第一会議室	黒崎明夫	ISCCP 会議に出席して
138	7月8日	第一会議室	明石秀平 木場博之 原田和幸 市成 隆	赤外及び可視画像によるDvorak法の比較について
139	11月20日	第一会議室	村山信彦 所長	第15回CGMS出席報告
140	12月18日	第一会議室	小佐野慎悟 元木敏博 鈴木和史	「GMS データとレーダー強度から降水強度を推定する試み(3)」 昭和61年度全国予報技術検討会にむけて
1987 (昭和62) 年				
141	2月4日	第一会議室	増淵光蔵 斉藤武夫	(1) ストレッチドVISSR 伝送方式及び受信局の対応について
			田中敏晴	(2) GMS-3 によるCDF 伝送実験の結果について
142	5月19日	第一会議室	麻生 正 大沢和裕 竹内義明	(1) 衛星雲画像による雲型判別の精度向上について II 雲特徴パラメーターの緯度変化
			佐々木秀行	(2) A GMS から算出される雲量と地上観測による雲量の比較
			佐々木秀行	(3) B GMS の赤外チャンネルで観測した陸上の晴天輝度温度の特徴

回	日時	会場	発表者	発表題目
1987 (昭和62) 年 (つづき)				
143	5月19日	第一会議室	操野年之	GMS 赤外窓領域のRadianceから長波長放射量(全赤外領域Flux)を推定する試み
144	5月22日	第一会議室	(映画)	(1) 対流の発達(SMS-1, GOES-E ミカ湖3分間隔) (2) 雷雲の発達 (GOES-E, VIS 3分間隔レーダー合成) (3) 発達した温帯低気圧(GOES-E 大西洋) (4) 霧の検出と解釈(GOES-E-W 山霧と海霧) 東大・海洋研究所提供フィルム
145	9月17日	第一会議室	(映画)	(1) 沖の鳥島観測所建設工事(昭和14年未完成) (2) ありし日の鳥島気象観測所(昭和38年頃のもの)
146	9月25日	第一会議室	萩原 武	台風解析技術開発の結果について(Phase I)
147	10月12日	第一会議室	麻生 正 木川誠一郎	衛星から見た中・ソ国境付近で発生した山火事の煙の移動
148	11月9日	第一会議室	三田昭吉 徳野正己 高橋永寿 高橋幸男	MOS-1 データによる雲形判別
149	12月16日	第一会議室	大島 隆 内田裕之	(1) 衛星風による台風周辺の風の場の推定
			鈴木和史 肆矢雄三	(2) 衛星データを用いた降水強度の推定
			伊藤秀喜	(3) 高々度の乱気流発生域と雲パターンの対応
150	12月25日	第一会議室	高橋大知	フィリッピン出張報告 気象衛星通信受信用機材供与に関する調査
1988 (昭和63) 年				
151	3月17日	第一会議室	丸山健人 森 一正	(気象研究所) エルニーニョ特別観測 「なつしま」による気象観測
152	3月16日	第一会議室	(長期予報業務における衛星資料の利用について、長期予報課)	
			山田慎吾	(1) エルニーニョの監視
			渡辺文雄	(2) 対流活動の季節内変動の監視
			林 久美	(3) TBB, 上層雲量とNOAA・OLR データとの比較
153	3月17日	第一会議室	麻生 正	ベトナム出張報告

付録2 技術検討会世話人

	期 間	世 話 人
①	1976 (昭和51) 年10月 ~ 1980 (昭和55) 年 3月	木村光一
②	1980 (昭和55) 年 4月 ~ 1982 (昭和57) 年 3月	加藤政勝
③	1982 (昭和57) 年 4月 ~ 1983 (昭和58) 年 3月	石川正勝
④	1983 (昭和58) 年 4月 ~ 1983 (昭和58) 年 9月	一木明紀
⑤	1983 (昭和58) 年10月 ~ 1985 (昭和60) 年 3月	阿部勝宏
⑥	1985 (昭和60) 年 4月 ~ 1987 (昭和62) 年 3月	田中 昭
⑦	1987 (昭和62) 年 4月 ~ 1988 (昭和63) 年 3月	吉塚健一

